

FY2014セグメント別業績予想

※ : 過去組替え数値確定に伴い、2014年7月31日更新

(単位: 億円)			
	A	B	A-B
	FY14 予想	FY13 実績	対FY13 増減額
国内食品			
売上高	3,123	2,999	124
調味料・加工食品		1,962	約35
冷凍食品		1,038	約90
営業利益	288	271	17
調味料・加工食品		292	約15
冷凍食品		51	約15
全社共通費	▲ 85	▲ 72	▲ 13
対前年増減要因または主要施策			
調味料・加工食品は既存品の再活性化と新製品の拡売により、冷凍食品は国内事業の再強化と好調な海外事業の更なる拡大により、ともに増収増益を見込む。			
【コストダウン目標】 調味料・加工食品 約17億円、冷凍食品 約19億円		【原材料価格影響】(▲: 損サイド) 調味料・加工食品 約2億円、冷凍食品 ▲約12億円	
海外食品			
売上高	3,222	2,924	298
コンシューマーフーズ	2,717	2,409	308
加工用うま味	504	514	▲ 10
営業利益	282	250	32
コンシューマーフーズ			47
加工用うま味			3
全社共通費	▲ 116	▲ 96	▲ 20
対前年増減要因または主要施策			
<ul style="list-style-type: none"> ・ C.foodsは現地通貨ベースでの売上高の二桁成長により増収の見通し。事業拡大だけでなく、事業構造の強化にも取り組み、営業利益も二桁成長を見込む。 ・ 加工用うま味調味料は、為替影響および販売価格の下落により減収を見込むが、新技術導入によるコストダウン等が寄与し、増益となる見通し。 			
バイオ・ファイン			
売上高	2,384	2,281	103
飼料用アミノ酸	1,023	941	82
アミノ酸		857	約25
医薬用・食品用アミノ酸		約320	
製薬カスタムサービス		約300	
甘味料		約235	
化成品		431	約5
その他		52	▲約10
営業利益	97	64	33
飼料用アミノ酸	40	2	38
アミノ酸		55	約5
化成品		93	約0
その他		▲ 18	▲約0
全社共通費	▲ 78	▲ 69	▲ 9
対前年増減要因または主要施策			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 飼料用アミノ酸は適切な価格戦略により増収。新技術導入によるコストダウンとスペシャリティ製品の販売拡大で増益。 【飼料用アミノ酸 当社販売数量予想】()内はFY13実績 リジン 350千t前後(350千t)、スレオニン 120千t前後(110千t)、トリプトファン 5千t前後(5千t) ・ 医薬用・食品用アミノ酸: 需要旺盛、販売増と一部の値上げ等により増収増益。 ・ 製薬カスタムサービス: 北米や欧州の売上拡大で増収も、国内の受注減により減益。 ・ 甘味料: 売上高、営業利益ともに前年並み。 ・ 化成品: 化粧品や電子材料で新規顧客への販売を実現し、増収増益。 ・ その他: 一部事業の見直しにより減収減益。 			
医薬			
売上高	440	512	▲ 72
営業利益	35	38	▲ 3
医薬	51	53	▲ 2
全社共通費	▲ 16	▲ 15	▲ 1
対前年増減要因または主要施策			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 輸液・透析事業のエイワイファーマ株への移管および薬価改定の影響により減収。 ・ 事業構造改革により製造原価や販管費削減に伴う利益率の改善図るも、上記減収の影響が大きく減益。 【コストダウン目標】 約8億円 			
その他			
売上高	911	797	114
油脂・コーヒー		23	約0
営業利益	▲ 2	▲ 5	3
油脂・コーヒー		22	▲約5
全社共通費	▲ 36	▲ 30	▲ 6
対前年増減要因または主要施策			
・ 健康は、健康ケア各事業で増収増益を見込む。			
総合計			
売上高	10,080	9,514	566
営業利益	700	618	82

表示上の注意: 非開示
約** 概算値

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。
※本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。
※本資料は、億円未満四捨五入で表示しております。